

# Alert 反天皇制運動 50 号

[通巻 432 号]  
2020 年  
8 月 4 日発行

第 50 期・反天皇制運動連絡会

高橋武智さんが、6 月 22 日に 85 歳で永眠された。この悲しい報告は、彼の後見人の弁護士事務所の事務員である、スタート時点からの「反天連」メンバーだった知人という、意外な人物が連絡してくれた。亡くなられた老人ホーム「ひまわり市が尾」には、私は、結局一度も訪ねることができなかった。すぐ想起したのは「平井啓之さんの思い出——『わだつみ会』の活動を通して」のタイトルのインタビューを私は武智さんと渡辺総子さんの二人を相手に「反天連」の機関誌『象徴天皇制研究』〈第 3 号〉でしている件である。1994 年 8 月 16 日の日付のあるものだ。すぐ読みなおしてみた。一世代(10 年以上)以上年上の彼と私の交流は、30 年以上前、昭和天皇 Xデーのドラマチックな政治過程が始まる直前から始まったのだと思う。武智さん(いつも僕らはこう呼んでいた)はその頃常に「わだつみ会」の武智さんだった

当時のその会の長老平井啓之さんとの交流も、彼が媒介役を買って出てくれることも少なくなかった。そういう関係を前提にしてのインタビューである。そこでも彼は、死につつある戦中の学徒世代の戦争体験を、自分たち「中間世代」を媒介に、私たち「全共闘」世代やそれ以降のより若い世代にどう「継承」できるのかに、こだわって発言している。

その後の「市民の意見 30 の会」の編集スタッフとしての私と彼の協力関係は何十年ごしで長い。隔月ニュースの会議と発送作業だから、長い間、月 1 回はほぼ確実に顔を合わせていたことになる。もっと、あれこれ話し協力してもらおう場所をつくっておくべきだったナーと、いま、思う。あのころ、平井さんをはさんで、身近に感じていた「わだつみ会」は、やはり私にはズーッと遠い団体であった(今度の「代替わり」プロセスでは、機関誌に一本原稿を書かせていただいたが、これも武智さんが繋いだのだと思う)。

反省は、いつも、取り返せない、決定的に遅れた時間にやってくる。さようなら武智さん。(天野恵一)

今月の Alert ● 「慈愛」も「威厳」もいらない! 国家による「慰霊・追悼」を許すな!——\*2

反天ジャーナル ● ——よこやまみちふみ、映女、ななこ\*3

状況批評 ● 女性国際戦犯法廷から 20 年——「慰安婦」問題の真の解決を求めて——池田恵理子\*4

紹介 ● 2020 東京オリンピック返上!——一年前反五輪国際イベント報告

「祝賀資本主義とオリンピック——ジュールズ・ポイコフ講演記録」——梶野\*6

太田昌国のみたび夢は夜ひらく(122)

● 軍隊の移動と感染症の拡大——太田昌国\*7

マスコミかけの天皇制(49) (壊憲天皇制・象徴天皇教国家 批判 その 14) ●

〈8・15〉天皇儀礼は被害「受忍」の正当化と、責任の隠蔽と忘却のためのセレモニー——天野恵一\*8

野次馬日誌\*9 集会の真相\*11 学習会報告\*11 反天日誌\*12 集会情報\*12



250 円

- 定期購読をお願いします (送料共年間 4000 円)
- 郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス  
東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A 淡路町事務所気付 落合ボックス  
TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://www.ten-no.net/> mail: [hanten@ten-no.net](mailto:hanten@ten-no.net)
- 以前の情報はこちら ▶ <http://hanten-2.blogspot.jp/>

今月の

Alert

# 「慈愛」も「威厳」もいらない！ 国家による「慰霊・追悼」を許すな！



このコロナ禍にあって天皇の「お言葉」はなげ出ない、といった記事は七月に入ってもボツボツではあるが続いている。その多くは、新天皇に「国民に寄り添っている」証しをビデオメッセージ等で表してほしいと望むものだ。メディアは天皇たちが「動けない」「動かない」ことを承知しているからこそ、「お言葉」を待望している。だが、「言葉」だけではなく、言葉通り「寄り添う」パフォーマンスがあつてこそ「平成流」であつたことを、新天皇・皇后はよく知っている。金と「言葉」だけの傲慢とも思える演出は避けたのではないか。一方で「民間人」同様に新型コロナウイルス感染に怯える天皇たちがいる。天皇の肉体を前提とする制度の限界なのだ。また、天皇が動けばたくさん人間と一緒に動く。東京から出向いた天皇とその一行が訪問先で感染源とならないという確証もない。出歩くわけにはいかないのだ。だから、そうではない形の、「国民に寄り添う」ポーズか、あるいは別の何かを模索しているというのが実態のように思う。いずれにしろそれはこの社会にとって不要、有害のものでしかないのだ。

では、天皇・皇后の動きがいかにかといえ、実はそうでもない。たとえば四月以降の天皇・皇后の、専門家や関係者を呼びつけて話を聞く「進講」「接見」が目立って多い。ほとんどが新型コロナウイルス関連だ。「視察」の代わりに専門家の報告と解説を受けているのだ。今年に入り

一月から三月までになされた「進講・接見」は二回だが、四月以降めっきり増えて、これまでに計一五回。そのうち、四月一〇日の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議副座長・尾身茂の進講の際に天皇が、そして五月二〇日の日本赤十字社社長・大塚義治、同副社長富田博樹の進講の際には、天皇・皇后が「お言葉」らしきものを読み上げ、後日それらは報道された。長くなるが、結の部分だけ引用しよう。

四月一〇日天皇「この度の感染症の拡大は、人類にとって大きな試練であり、我が国でも数多くの命が危険にさらされたり、多くの人が様々な困難に直面したりしていることを深く案じています。今後、私たちが皆がなご一層心を一つにして力を合わせながら、この感染症を抑え込み、現在の難しい状況を乗り越えていくことを心から願っています」

五月二〇日天皇「これからも、私たち皆が、この感染症の克服に向けて、心を一つにして力を合わせ、困難な状況を乗り越えていくことが大切だと思います。／新型コロナウイルスと闘っている医療従事者の皆さんに、改めて心から感謝の意を表しますとともに、皆さんには、今後ともくれぐれも体に気をつけてお仕事を続けられるよう願っています」

皇后「これまで医療活動に献身的に力を尽くしてこられている方々、そして、その方々を支えられているご家族や周囲の方々に、陛下と一緒に心からのお礼の気持ちを伝えたい

と思います。／これからも、まだ厳しい状況が続くことが案じられます。日本赤十字社の皆さんを始め、医療に従事される皆さん方には、くれぐれもお体を大切にされながら、これからも多くの方の力になり、この大切なお務めを無事に果たしていけますよう、心から願っております」

これらの言葉が、目の前にいる個人に向けられたものではないことは明瞭だ。そして「祈る」という自分の行為を伝えるのではなく、「願っています」と不特定多数に向けて行為を促す。また、「国民」を案じ「国民」に代わって感謝や礼を述べる。行動が伴わないこれらのことは「寄り添い」「親しさ」よりも「威厳」の方を感じさせる。「威厳」が天皇にとっていいのかどうか、これからの天皇たちの模索は続くだろう。私たちは、その模索の過程も含め批判の論理を明確に出していくしかない。「慈愛」の天皇を演出できない象徴天皇は危機であらう。一方でいま見え隠れしている「威厳」の天皇を社会が認めるとなれば、非民主社会へとさらに踏み込むことになるだろう。

私たちはいま、国家による「慰霊・追悼」を許すな！ 8・15 反「靖国」行動の準備を進めている。前段集会として、八月一日には北村小夜さんを迎えて「コロナ危機と天皇制」集会を開催した。準備も参加も、それぞれの条件下でできる人がやる。無理のないところで、ぜひご参加を！

(大子)

## メタファーとしての戦争

新型コロナウイルスをめぐる夥しい言説の中で、私が危疑したのは次のような発言であった。「新型コロナウイルスに打ち勝つ」(英ジョンソン首相)。「目に見えない恐ろしい敵との闘い」(安倍首相)。「見えない敵を戦争とみなしている」(米トランプ大統領)。これらの言葉に象徴されているのは、コロナ禍を戦争状態とみなす考え方である。パンデミックという危機的状況に対応する勇ましい指導者の姿勢をここに見るのは早計である。

鈴木隆二『免疫学の基本がわかる事典』(西東社、二〇一五年)を手にとってみると、「侵入」、「攻撃」、「防御」といった用語が頻出していることに気付く。どうやら、免疫学を構成するヴィジョン、あるいは世界観そのものが、外敵に対する戦争という軍事的メタファーによって成り立っているのである。免疫系の書物であるエミリー・マーチン『免疫複合』(青土社、一九九六年)にもその点が如実に描かれている。

したがって、彼らはそれほど意識的に軍事的メタファーを用いているのではなさそうだ。しかし、こうした言説があらゆる分野に流通し消費されているということは、私たちがそれだけ戦争に照らして物事を理解する方法に馴化してしまっているということの表れではないか。私が危疑するのはまさにこの点である。

(よこやま みちひろ)

## BLMから脱植民地主義へ

5月下旬、米ミネアポリスでG・フロイドさんの白人警官による殺害事件をきっかけに「Black Lives Matter」運動が米国だけでなく世界中で巻き起こった(以下、The New York Times 国際版 20・7・28)。その動きを受けて、脱植民地化を求める声が、ヨーロッパ各地で起きた。6月、英ブリistolでは、17世紀にアフリカの奴隷貿易を独占した、王立アフリカ会社幹部E・コールストン像が引き倒された。ベルギーでは、19世紀末から20世紀初頭にかけてコンゴを私有地にして、1千万人以上を殺したといわれる、レオポルド2世の像が目標にされた。

植民地主義は、地球の南半分を作っただけではない。ヨーロッパと近代世界を作ったのである。奴隷貿易のもうけはブリistol、リバプール、ロンドンなどの港町を栄えさせ、奴隷制が作り出した大西洋経済が産業革命をもたらしただ。

レオポルド2世の像をコンゴ民主主義共和国の旗で覆い、コールストン像を何千もの奴隷とされた人々が沈んだ海に投げ込むことは、西欧帝国の過去と現在、その政治的経済的な栄光が奴隷制と植民地搾取の産物であることを暴くものである。

植民地史は、現在の世界の不平等と階層性を形成しており、それは次の段階、償いと回復に導く。だからこそ、ヨーロッパ内部における旧植民地の黒人移住者などへの差別問題が「Black Lives Matter (黒人の命だって大切)」なのである。

(映女)

## いなくていいのだ

ほんの一部の人たちを除いて、天皇のことなど忘れていると思う。天皇夫婦が並んでのビデオメッセージを待っているとマスコミは言う。でも、誰もそんなものは待っていない。

彼らの「公務」とされている四大行事や豪雨災害の被災地に出かけて行くようなことは、コロナ禍のなか、当分できるとは思えない。明仁・美智子夫婦の時代、あれだけの天災や人災があっても、そしてそれがどんなに迷惑なことであろうと「国民」の中に入っていくこと、膝をつき合わせて話をするので彼らの象徴天皇像を確立した。徳仁・雅子夫婦は、新たな彼らの天皇像をつくっていくこととしていたであろうが、何かしよつとしても、どうも側近が積極的ではないとの週刊誌報道もある。まあ、前例のないことをやりたがらないのはどの役所も同じだ。おそらく、それをできないまま「祈る」ことしかできない生活をしているはずだ。天皇や皇族たちは、人前に出ていつて何か言ったり跪いたりして、それをマスコミが垂れ流さなければいけないも同然だ。人びとは今はマジそれどころではないのだ。

この国が極めつきのピンチはすれであることは今は誰もが知っている。敵基地攻撃能力だ？ 冗談言っていないで、コロナ対策早くちゃんとやりなさいよ。

(ななこ)

反

天



ジャナール

# 状況批評

思想・状況・批評

## 女性国際戦犯法廷から20年——「慰安婦」問題の真の解決を求めて

池田恵理子（アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」（wam）名誉館長）

二〇二〇年五月七日に韓国・大邱で行われた「慰安婦」被害者・李容洙さんの記者会見には大きな衝撃を受けた。李容洙さんが長年、支えあつて活動してきた仲間たち——「日本軍性奴隷制問題解決のための正義記憶連帯」（以下「正義連」）や前理事長・尹美香さんを強く批判したからだ。それは「慰安婦」問題に取り組み熱い思いが溢れてのことだった。ところが韓国の保守系メディアは彼女の発言を歪曲・悪用して、「正義連」や尹さんたちを「不正会計疑惑」などで激しくバッシングしたのである。すると日本のメディアは韓国情報をそのまま垂れ流して「正義連」叩きをやり始めた。保守系メディアばかりか、テレビ朝日やTBSなどのワイドショーまでが、何度も長時間の特集を組んだ。それはこの機会に、「慰安婦」問題を丸ごと否定しようとするような勢いだった。何故こんなことになってしまったのだろうか。

元「慰安婦」の女性たちが名乗り出て、被害を訴え始めてから三〇年が経つが、「慰安婦」問題は一向に解決しない。二〇一五年一月の日韓外相会談で両国政府は、日韓「合意」が成立したとして「慰安婦」問題の「最終的・不可逆的」な解決を宣言した。日本のメディアはこれで「一件落着」と報じたが、韓国では日本への不信感と反発が強まるばかりだ。日本政府は重要な被害事実も日本の法的責任も認めず、謝罪も賠償もしないからである。

日本の侵略戦争を「アジア解放の聖戦」とし、憲法改正をライフワークと公言している安倍首相は、一九九三年に国会議員になってから一貫して「慰安婦」問題をなかったことにしようとしてきた。彼は戦時中の日本軍・日本政府と同様に教育と報道に介入し、「慰安婦」に関する世論を自分の思い通りにしようとする目論みでいる。そこで原点に戻り、「慰安婦」問題の歩みを今一度、振り返ってみたい。

### ●日本軍・日本政府に封殺されてきた「慰安婦」問題

日本軍はアジア太平洋戦時中、日本兵の強かん防止と性病予防のために慰安所をアジア全域に設置したがその報道を禁じ、兵士には「慰安婦」は「戦

場へ金儲けに来た売春婦」と思い込ませた。敗戦直前には慰安所関連資料の焼却を命じて証拠を隠滅した。膨大なはずの被害者数は把握できない。戦後には、戦記や戦争文学、戦争映画にも「慰安婦」は登場するが、戦場に咲いた「あだ花」のように描かれた。

ベトナム戦争を機に戦争加害が問われ始めた一九七〇年代、「慰安婦」のルポルタージュや自伝が出版され、沖縄に残留した元「慰安婦」が報じられた。ウーマンリブ運動での問題提起もあったが、社会運動には発展しなかった。一方、韓国では一九八〇年代から「慰安婦」調査が始まり、女性運動の盛り上がりや背景に、一九九一年、金学順さんが「慰安婦」被害者として名乗り出た。これを機にアジア各国の被害者が次々と立ち上がり、日本政府に謝罪と賠償を求めて提訴した。国内では各地に支援団体が誕生して証言の聞き取りや文書資料の発掘が始まり、次第に「慰安婦」被害の全貌が見えてきた。この時期、被害女性が名乗り出た背景には、東西冷戦の終結とアジア諸国の民主化、昭和天皇の死、女性運動の高まりがあった。

対応を迫られた日本政府は二回ほど「慰安婦」調査を行い、一九九三年には河野官房長官が「慰安婦」の強制を認めてお詫びと反省の談話（「河野談話」）を発表した。国際社会も動き出す。九三年の国連の世界人権会議（ウィーン会議）や九五年の国連の世界女性会議（北京会議）では「慰安婦」問題が焦点となり、九六年には国連人権委員のクマラスワミ報告が出た。ILOの専門委員会では日本政府に勧告を出している。

こうした状況に危機感を募らせたのが、右翼や歴史修正主義者たちだった。彼らは一九九七年版の中学歴史教科書の全てに「慰安婦」が記述されたことに慌て、「新しい歴史教科書をつくる会」や「日本の前途と歴史教育を考える若手議員の会」（事務局長は安倍晋三議員）を結成。教科書会社への猛攻撃を始める。その結果、「慰安婦」の記述は次第に教科書から消されていった。各地の公民館や資料館が「慰安婦」関連のイベントを企画すると攻撃を



受け、展示や集会の撤去・後退を強いられた。同じようにマスメディアでも一九九〇年代前半には「慰安婦」報道は急増したが、一九九七年以降は急速に下火になった。ニュースでは取り上げてても、ドキュメンタリーや調査報道が激減した。「ファシズム政権は教育とメディアを管理・統制して、国民をマインドコントロールする」と言われるが、日本でも教育と報道から「慰安婦」が消されていったのである。

### ●二〇〇〇年に実現した「女性国際戦犯法廷」

このような動きの中で、「慰安婦」被害者が日本政府を訴えた一〇件の裁判は順次、結審していった。そのうち八件の判決で事実認定はされたが、国家無答責や除斥期間、二国間の平和条約などを理由に原告の請求は棄却された。相次ぐ敗訴で悲嘆にくれる被害者を前に、加害国・日本の女たちは何をすべきかの模索が始まった。そして一九九八年、元朝日新聞記者で女性運動家の松井よりさん（WAWWNETジャパン代表）が「女性国際戦犯法廷」（以下、「女性法廷」）を思いつく。「慰安婦」制度の実態とその責任者を明らかにする民衆法廷を提案したので。これは日本でも各国の被害者や支援団体、法律家たちからも支持され、二〇〇〇年の開催が決まった。国際実行委員会が組織され、「法廷憲章」や首席検事、判事団が決まり、各国検事団は起訴状作成に取りかかった。

二〇〇〇年二月八日に開廷した「女性法廷」には八カ国の被害女性六四人をはじめ、世界三〇カ国から連日一三〇〇人の傍聴者が詰めかけた。二月二日、昭和天皇に「有罪」、日本政府には国家責任ありとする「判決」が下された時、被害女性たちは「正義は私たちを見捨てなかった」と歓喜した。これを海外メディア九五社二〇〇人の記者がトップニュースで報じたが、日本のメディアは四八社一〇五人が取材に来ていたものの、その扱いは極めて小さかった。

そればかりかNHKの「ETV2000」は、「女性法廷」に否定的で支離滅裂な番組を放送した。これに対して主催団体がNHKを提訴したところ、東京高裁で審理中の二〇〇五年にNHK職員の内部告発によって、放送直前に安倍晋三官房副長官（当時）らの政治介入で番組が改竄されたことが暴露された。東京高裁では原告勝訴、最高裁ではお粗末な判決で原告敗訴となり、NHKは政治介入の事実を認めず検証番組も作っていない。しかし、「慰安婦」問題をなかつたことにしたい政治家と、それに屈したメディアの実態が暴露

された意義は大きく、戦後の放送史に残る大事件になった。

### ●「女性国際戦犯法廷」の意義とその継承

二〇〇六年から始まった第一次安倍政権以降、政権による報道支配は強まる一方だ。二〇一三年には首相のお友達、が四人もNHKの経営委員になり、NHKの「アベチャンネル化」が進んだ。深刻なのは、こうした傾向が報道全体に及んだことである。政権による世論誘導は容易となり、今の日本の惨憺たる状況を作り出していると言えよう。

しかし、「女性法廷」が国際社会と世界の女性運動に与えた影響は大きい。東京裁判でも裁けなかった天皇の戦争責任と植民地支配責任を明らかにしたのは、画期的だった。この判決は二〇〇一年の国連・クマラスワミ報告書や、IOL条約適用専門家委員会の所見にも引用され、国際刑事裁判所（ICC）規定にも影響を与えた。二〇一〇年にはグアテマラやビルマで先住民族女性への性暴力を裁く民衆法廷が開かれ、旧ユーゴやアフガンの女性たちの模索も始まった。

「女性法廷」を実現した日本の女たちは、発案者の松井よりさんの遺志を継いで、二〇〇五年にアクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」（WAGE）を創設した。ここは日本で唯一の「慰安婦」資料館で、関連資料の収集・保存・公開をしながら講演会や上映会、連帯行動なども行なう。アジア各地の「慰安婦」資料館への支援や情報提供とともに、「慰安婦」パネルを翻訳して欧州やアジア諸国での巡回・展示もやってきた。二〇一六年には、日本を含むアジア八カ国の民間団体で「日本軍「慰安婦」の声」をユネスコの世界記憶遺産に登録申請したが、日本政府による妨害と圧力で未だ保留にされている。このような活動をしているWAGEは右派のターゲットにされ、開館当初から嫌がらせや攻撃を受けてきた。ヘイトスピーチの「在特会」の一団に侵入されそうになったり、「朝日赤報隊」を名乗る者から二度にわたって爆破予告の脅迫状を送りつけられたこともある。

私たちは歴史を修正し抹殺しようとする者たちとの闘いを強いられているが、彼らの陰謀と暴力に屈するわけにはいかない。高齢に達した被害女性たちはわずかととなり、残された時間は限られている。彼女たちが生きている間に日本政府を問題解決に向かわせるのは、私たちの責務である。そして「慰安婦」問題を知る機会を持てなかつた若い世代のために、被害女性の証言と闘いの記録を確実に継承していかなければならないのである。

# 紹介

## 2020東京オリンピック返上！一年前反五輪国際イベント報告 「祝賀資本主義とオリンピック」 — ジュールズ・ボイコフ講演記録 —

コロナ禍によって一年延期が決定された東京オリンピックだが、来年開催できるかどうか非常に怪しい情勢になっている。と言いつつも、そもそも今年一月末から二月初めにかけて、新型「コロナウイルス」の世界的なパンデミックが明らかになった時点で、開催中止を決定するべきであった。「完全な形で開催」に固執し続けた日本政府、日本オリンピック委員会（JOC）、東京都による、感染拡大の隠蔽、過小に見せかける情報操作等により、感染対策が遅られ被害が拡大したことは明らかであった。

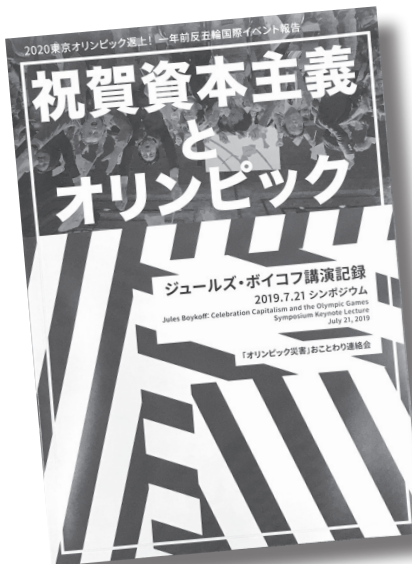
この期に及んで、まだ、来年の開催をあきらめていないのは、オリンピック開催が、それにかかわる組織（JOCや東京都）や企業（ゼネコンや電通、デベロッパー等）、スポーツ関連諸団体にとって、いかに「おいしい」ものであるかを証明している。その一方で、さまざま「災害」をまき散らしていることも。

ここで紹介するパンフは、昨年の七月、東京オリンピック開催一年前の企画として、「オリンピック災害」おことわり連絡会（おことわりリンク）が反五輪の会などと協力して取り組んだ「反五輪国際イベント」（7月20日～27日）の一環として行われた、シンポジウム「祝賀資本主義とオリンピック」（7月21日、於・早稲田大学、主

催：F.O研究会）におけるジュールズ・ボイコフ（Jules Boykoff）さんの講演記録を中心に構成されている。

ボイコフさんは、1970年生まれで、パシフィック大学政治学教授。元プロサッカー選手でもあり、バルセロナ五輪の米国代表メンバーとしてブラジル戦やソ連戦などの国際試合に出場した経験をもつ。著書『オリンピック秘史：120年の覇権と利権』（早川書房）などでオリンピック批判を精力的に展開している。

今回の講演では、オリンピックの歴史を振り返り、「祝賀資本主義」という視点からオリンピックの招致・開催を丁寧にわかりやすく批判している。オリンピックの問題点の本質を短時間で理解するにはもってこい。



いの内容である。

本パンフには、他に、同シンポジウムにおける、いちむらみさこさんの「Tokyo Olympic 2020」と題する、新国立競技場建設などで再開発が展開された明治公園等での野宿者追い出し（五輪災害の最たるもの）の実態についての報告、25日に上智大学でセミナーローズドで行われた「Teach-in for Tokyo Olympics researchers and journalists」における井谷聡子さん（関西大学）の報告「フェミニスト視点によるオリンピック批判について」、また、「おことわりリンク一年前企画フォトレポート」も収録されている（ボイコフさんと井谷さんの講演は英文も収録）。ぜひご購読ください。

なお、おことわりリンクでは、本来予定されていた開会式の前日（7月23日）に「中止一択！東京五輪」と題した集会を開催した（「集会の真相」参照）。集会には、ボイコフさんがビデオメッセージを寄せてくれている。集会記録（動画）はおことわりリンクのWEBサイト（<http://www.2020kotowa.link>）にアップされているので、こちらまでぜひご覧下さい。

（梶野／「オリンピック災害」おことわり連絡会）

判型：B5判・60ページ  
頒価：5000円

編集・発行：「オリンピック災害」おことわり連絡会、2020年7月24日

連絡先：info@2020kotowa.link

みたび

# 太田昌国の夢は夜ひらく 122

## 軍隊の移動と感染症の拡大



新型コロナウイルスが私たちに問いかけてくる数多い課題のなかには、目先の対応策に追われている時には見逃しやすいが、けっこう本質的なものだと思うせられるものがある。私がこのかん関心を持っているのは、「軍隊・戦争と感染症」の関係についてである。ご多聞に漏れぬ俄か勉強で、第一次世界大戦末期の一九一八年に流行が始まったインフルエンザがこの戦争に及ぼした「影響力」の強さを遅ればせながら思い知った。

日々の軍隊生活の密室性、航空機が初めて戦闘に参加したとはいえ当時の戦争では当たり前だった塹壕戦での「密」、戦況に準じて移動・転戦する兵士に付き添って移動する感染症、国を挙げての総力戦であればあるほど、戦場・兵士が移動する地域空間・兵士が蟄集する基地・師団の位置と民間人の生活圏との近接性——さまざまな角度から見て、その関係は、敢えて言えば「親密圏」なるものを形成しているともみることが出来る。ウィルスは、人間同士の間にある「親密圏」を媒介にしてこそ、生き延びる。非武装の民間人からすれば、「国家社会のために武装」し、「死を賭している」兵士は、その時代の価値観の中では、「仰ぎ見る」存在であり、自らを存在論的に下位だと思い込まされるに至る。だから「親密圏」

とはいっても、本来ならその関係性は、「挙国一致体制」の確立を目指す為政者によって政策的かつ意図的に形づくられるという意味で「一方的」なものでしかない。

ウィルスの、古の時代における出現も新たな出現も、過去から現在に至る人間の自然征服史を前提としている。この本質を見なければ、今回のコロナ禍を戦争に譬える物言いや、内戦下の地域での「コロナ停戦」という知恵に、思わず納得したりすることになる。だが、私なら一足飛びに、かくまで人間社会を攪乱するに長けたウィルスによる感染症に賢く向き合うためにも、遅きに失した恨みは残るが人間による自然征服史の見直しや、戦争の廃絶の道に向けた予見的な道を探りたい、というのが本音である。

山野を焦土と化す愚か極まりない戦争もまた「自然征服」の一環と捉えて、ここでは「軍隊と感染症」の問題に絞るとして、私たちの足元で考えようとしてすぐ思い浮かぶのは、在日米軍基地における新型コロナウイルスの感染拡大である。すでに神奈川県横須賀、厚木、キャンプ座間、京都府の京丹後、山口県の岩国などの各米軍基地での感染者の発生が報告されている。岩国基地の三人の感染者の場合は、米国から七月一二日に羽

田空港で入国し、PCR検査を受けながら結果の判明を待つことなく民間機で岩国錦帯橋空港へ移動（レンタカーで移動すると虚偽申告していた）し、岩国基地へ入ったとされている。これというのも、日本は四月三日以降米国からの入国拒否措置を講じながら、「合州国軍隊の構成員は旅券及び査証に関する日本国の法令の適用から除外される」とする日米地位協定第9条が存在するからである。米国は、対日「戦勝」後七五年目を迎えている現在もなお、さながら「日本は保護領」意識のままでいることを、私たちは改めて自覚すべきだろう。

この矛盾が最も明白に現れているのは、もちろん、沖縄においてである。在日米軍司令部が七月二四日に公表せざるを得なくなった基地ごとの感染者数から見ると、一八九人の感染者のうち八六・八%を沖縄駐留の米海兵隊員が占めている。従来の統計に基づけば、毎年半年ごと（多くは六月と二月に）大規模な部隊交代が行なわれている。その数は平均五五〇〇人近いから、在沖海兵隊員の三分の一に上る。配属部隊はそれぞれ、他基地部隊との共同訓練、陸上自衛隊との合同演習、二国間・多国間演習など、日本国内のみならず広くアジア太平洋地域を舞台に軍事作戦を展開しているのである。日本を「治外法権」地域として何らの規制も受けずに、自由に移動できる米軍兵士たち。しかも、軍事機密だとの理由から、その動きは公表されない——そこに見えるのは、感染症拡大の一因だけではない。日米軍事同盟が、東アジア、ひいては世界全体の平和に対する脅威となっているという、否定しがたい姿なのだ。

(7月31日記)



49  
ミナミの  
天

# 〈8・15〉天皇儀礼は被害「受忍」の正当化と、責任の隠蔽と忘却のためのセレモニー

―「壊憲天皇制・象徴天皇教国家」批判 その14

天 野 恵 一  


「国家による『慰霊・追悼』を許すな8・15反『靖国』行動」の私たちは、今年は八月一日に「コロナ危機と天皇制」のテーマでの講演集会、八月一日に「反『靖国』デモ」と二つに行動をわけた。できるだけ「三密」を避けようという新型コロナウイルスの感染拡大状況への配慮が、そこにはある。

今日（七月三〇日）の『朝日新聞』のトップニュースは、国が「大雨地域」のみを線引きした結果、「黒い雨」による健康被害を受けているにもかかわらず「被爆者健康手帳の公布を受けられなかった人々による訴訟で、広島地域が国の被爆者として援護していく対象を、できるだけ狭めてきた政策が誤っていたと認め、八四人全員の手帳の公布を命じた二九日の判決である。こんな、あたりまえの判決が出たのは、被爆（敗戦）後なんと七五年後の今なのである。「国体護持」にこだわった米国の原爆使用を引き出した天皇と国こそが直接の加害者であろうに。

80年に「戦争被害は国民が等しく耐え忍ばなければならぬ」という「受忍論」を公然と主張した日本政府のこの無責任行政が、少しでも変更されなくていく契機になればと思う。

二九日には、核をめぐって、もう一つの大きな動きがあった。国の原子力政策の中核組織である、日本原燃六ヶ所再処理工場（青森県）について、原子力規制委員会が、安全対策の基本方針が

新規制基準に適合しているという審査書を正式決定したのである。

一九九三年に着工し、完成時期はトランプ統覧で二四回延期されているしるものである。そこで生まれるプルトリウム大量消費をあてこまれていた「高速炉もんじゅ」は、たちゆかず、すでに廃炉が決定している。核燃料サイクルは、全面的に破綻しているのである。「すでに建設費は二九兆円に膨張しており、さらに七千億円を投じた安全対策工場」が進んでいくと報じられている。医療労働者の疲弊、病院の大赤字が叫ばれている中で、感染者の全国拡大（はじめての一日全国感染者千人超、岩手県でも確認され、感染者ゼロの都道府県は消滅が二九日のデータである）。

本当に、こんなところに金を使っている場合か。残念ながら日本の国（政府）の国民の命より原子力産業（マネー）という無責任政策の基本は、不動だ。

敗戦七五年の〈8・15〉を目前にして、以下のことを確認しておこう。あれだけの侵略と植民地支配を、大量の「国民」を動員して実行した、加害者である国の責任は、絶対的権威・権力として存在したヒロヒト天皇がまったく責任を取ることもなく延命したことに象徴されるように、まともにも取られることなく、今日までできてしまっているのだ。

象徴天皇二代目アキヒトは、先代の「偉業」を

継ぐと宣言して即位し三〇年後「生前退位」し、今の天皇は、象徴二代をたたえて「即位」しているのである。国の戦争（植民地支配）責任が、今の安倍政権と新天皇に問われ続けるのは、あたりまえである。

「国民」は戦争被害を「受忍」して、基本的に国に責任を問うなどということはおきかめるといふ無責任体質（文化）は、責任を取らずに象徴（人間）天皇にモデルチェンジした戦後の象徴天皇制がスタートした時点で、より強固にかたちづくられ、今日まで連続しているのだ。

サンフランシスコ講和条約が発効し、形式的には独立国家となった一九五二年五月二日に、早々と政府主催・天皇出席の「全国戦没者追悼式」は新宿御苑で開催された。その時の天皇の「お言葉」を引こう。

「今次の相づく戦乱のため、戦陣に死し、職域に殉じ、また非命にたおれたものは、挙げて数うべくもない。衷心その人々を悼み、その遺族を想うて、常に憂心やぐが如きものがある。本日この式に臨み、これを、哀傷の念新たなるを覚え、ここに厚く追悼の意を表する」

殺し殺される侵略戦争に人々を自分の絶対的権威（権力）を使って駆り出し、自分たちの延命のために無差別殺傷兵器原爆使用を引き出した、天皇の死傷者を作り出したことに対する責任感など、ここには「ミミも読めない」「憂心」も「哀傷」という追悼言葉も、責任の隠蔽と忘却をねらって動員されているだけだ。三代目になっても、このセレモニーと「お言葉」の政治的欺瞞度は、高まりこそすれ、薄れることなくありえないのだ。



# 反天皇制運動

7月1日～7月31日

7月1日

**上皇侍従**◆上皇侍従の石和田二郎が6月30日付で依願退官し、国土交通省大臣官房付の岡良介が上皇侍従に就任する宮内庁人事が公表される。

**歌会始**◆宮内庁が、翌年1月に皇居で開かれる歌会始の儀（題は「実」）の選者5人を発表。

**百舌鳥・古市古墳群**◆百舌鳥・古市古墳群世界遺産保存活用会議事務局が、古墳群が世界遺産に登録されてから6日で1周年を迎えることを記念して、古墳群の魅力を発信する動画を配信すると発表。堺市は、堺市博物館（堺市堺区）を7月7日から8月10日まで無料開放すると報道。

7月3日

**徳仁、雅子**◆赤坂御所で、全国身体障害者施設協議会の日野博愛会長らと面会し、新型コロナウイルスの感染拡大が障害者の支援に及ぼす影響について、説明を受ける。

7月6日

**徳仁、雅子**◆宮内庁の池田憲治次長が定例会見で、熊本県南部を襲った豪雨被災地に対する徳仁、雅子の「お気持ち」を明らかに。

7月7日

**徳仁、雅子**◆赤坂御所で、新型コロナウイルスの感染拡大が雇用に与える影響に

ついて、厚生労働省の小林洋司・職業安定局長らから進講を受ける。

**時代祭**◆10月に行う「時代祭」の行列について、平安神宮などが中止する方向で検討を進めている。行列以外の神事は実施する予定。

**日口犠牲者慰霊**◆旧ソ連によるシベリア抑留や日本のシベリア出兵で死亡した日本とロシア両国犠牲者の慰霊を続けてきた岐阜県揖斐川町のNPO「ロシアとの友好・親善をすすめる会」が、会員の高齢化を理由に解散を決めたと報道。

7月10日

**雅子**◆皇居内の紅葉山御養蚕所を訪れ、当年の養蚕作業の締めくくりとなる「御養蚕納の儀」に臨む。

**海づくり大会**◆宮城県の村井嘉浩知事が記者会見し、9月26、27両日に予定していた「第40回全国豊かな海づくり大会」の開催見送りを正式表明。「大変心苦しいが、新型コロナウイルス感染の現状は予断を許さず、苦渋の決断だ」。徳仁、雅子が出席予定だったことについて「新しい御代になり、両陛下に（東日本大震災から）復興した姿を見ていただきたいという思いは強かったが、安全を考えるとやむを得ない」。

**広島原爆の日**◆広島市が、原爆の日の8月6日に開く「原爆死没者慰霊式・平和祈念式」の概要を発表し、93カ国とEUの代表が参加する見通し。

の代表が参加する見通し。

7月11日

**岡井隆**◆岡井隆（歌人、文化功労者）が10日、心不全のため東京都武蔵野市の自宅で死去。1993年から歌会始の選者を務め、内科医でもあり、宮内庁御用掛、京都精華大教授も務めた。

**警察犬慰霊**◆警視庁が、犯罪捜査で活躍した警察犬の慰霊祭を営む。慰霊碑がある東京都板橋区の東京家畜博愛院で、鑑識課の担当者ら約10人が慰霊碑に花や線香を手向ける。

**アイヌ**◆アイヌ文化の継承と国民理解促進の拠点として北海道白老町に整備された施設「民族共生象徴空間（ウポポイ）」が12日開業するのを前に、ウポポイで記念式典があり、菅義偉・官房長官や萩生田光一・文部科学相らが参加。アイヌの遺骨が集約された慰霊施設や国立アイヌ民族博物館などの主要施設を視察。

7月14日

**大津祭曳山巡行**◆NPO法人「大津祭曳山連盟」などが、10月に大津市で予定していた国の重要無形民俗文化財、大津祭の曳山巡行を中止すると発表。新型コロナウイルスの影響で、豪華な幕やからくり人形を飾った曳山を引くボランティアの確保が困難なためだとしており、曳山の巡行の中止は昭和天皇の病状悪化で自粛した1988年以来と報道。

**青函連絡船犠牲者追悼**◆米軍機のアミエ犠牲になった青函連絡船の乗客乗員計424人の追悼集会が、青森市であり、遺族1人を含む約30人が参加。

7月15日

**百舌鳥・古市古墳群**◆堺市が、仁徳天皇陵古墳の南側に設ける観光案内施設「百舌鳥古墳群ビジターセンター」の完成イメージを公開。

7月16日

**徳仁、雅子**◆赤坂御所で、新型コロナウイルス禍における生活困窮者の現状や支援策について、厚生労働省の谷内繁・社会援護局長と、困窮者支援に取り組むNPO法人「抱樸」（北九州市）の奥田知志・理事長から進講を受ける。コロナ禍で仕事や住む場所を失っている人が出ていることや、生活保護の申請が増えていることなどを説明。徳仁「大変な現場でしうが頑張ってください」。

**スペイン王室**◆スペインで、新型コロナウイルス犠牲者を悼む国主催の式典が開かれる。王宮前で行われ、国王フェリペ6世一家やサンチェス首相ら政府関係者、欧州連合首脳、テドロス世界保健機関事務局長ら約400人が参加。

7月17日

**英王室**◆エリザベス英女王の孫娘ベアトリス王女が、結婚式を極秘で実施。

**皇宮警部補**◆皇宮警察本部が、常陸宮家を担当する50代の男性護衛官が新型コロナウイルスに感染したと発表。

**検事総長**◆稲田伸夫の後任として起用された林真喜の検事総長就任に伴う認証式が皇居で行われる。

7月18日

**代替わり**◆宮内庁が京都御所で、新型コロナウイルスの感染拡大のため延期して

いた「高御座」の一般公開を始める。8月27日まで。

## 7月19日

**活動家追悼**◆トランプ米大統領が、米公民権運動の闘士で80歳で死去した黒人のルイス下院議員の功績に敬意を表し、国内外の全ての米公共施設で半旗を掲げるよう指示。

## 7月20日

**徳仁、雅子**◆宮内庁の池田憲治次長が定例会見で、徳仁、雅子が、豪雨で大きな被害を受けた熊本県の蒲島郁夫知事に対し、犠牲者を悼み、遺族や被災者を見舞う気持ちを伝えたと明らかに。小田野展丈・侍従長を通じて蒲島知事に伝えたと報道。

## 7月21日

**徳仁、雅子**◆赤坂御所で、NPO法人「キッズドア」の渡辺由美子・理事長らと面会し、新型コロナウイルス禍が、子どもの貧困に与える影響や、学習支援や子ども食堂などの状況について説明を受ける。渡辺理事長らによると、子ども食堂という形ではなく、宅配で食の支援を続け、オンラインで学習を手助けするなど現場の工夫を紹介。徳仁「ピンチはチャンスになりますね」。

**靖国参拝**◆新日本宗教団体連合会が、終戦記念日の8月15日に安倍晋三首相や閣僚が靖国神社に公式参拝しないよう求める首相宛ての意見書を自民党本部に提出。公式参拝が信教の自由と政教分離に反すると指摘。4月の春季例大祭に合わせ、首相が「真榊」と呼ばれる供物を奉納し

た対応について「首相という立場での宗教的『行為だ』と記す。

**水俣病慰霊式**◆熊本県水俣市などが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、水俣病犠牲者慰霊式の本年度の開催を見送ることを決める。市などで行う実行委員会の緒方正実・委員長「水俣病を経験したからこそ、命の大切さを重視した。初めてなので大変重い決断だ」。

**アイヌ遺骨**◆北海道浦幌町のアイヌ民族の墓地から持ち去った6体の遺骨を巡り、返還を求めて提訴していた地元アイヌ団体と東京大が8月7日にも和解する見通し。

**ヒトラー暗殺未遂**◆第2次大戦中、ドイツ軍将校らがヒトラーの殺害に失敗した暗殺未遂事件から76年となり、ベルリンで追悼式典が開かれる。

## 7月26日

**国歌斉唱**◆バスケットボール女子の米プオリグWNBAAで、初戦のリパティーストーム戦で国歌斉唱時に両チームの選手が人種差別への抗議の意味を込めてコートから退去。

**模擬原爆**◆広島、長崎への原爆投下の訓練として米軍が落とした爆弾「模擬原爆」で犠牲になった人々を追悼する恒例の集会が、大阪市東住吉区の投下地点近くで営まれる。新型コロナウイルス感染防止のため、参列者数を大幅に減らしたと報道。

## 7月27日

**徳仁、雅子**◆赤坂御所で、新型コロナウイルス禍が企業活動へ及ぼす影響や課題

などについて、経団連の古賀信行・審議員会議長と日本商工会議所の三村明夫会長、経済同友会の桜田謙悟・代表幹事から進講を受ける。

## 7月28日

**活動家追悼**◆米公民権運動の象徴的存在の黒人の民主党下院議員ジョン・ルイスの遺体が、首都ワシントンの連邦議会議事堂に安置される。追悼式典に上下両院議員が超党派で参列。トランプ大統領が、議事堂を訪れ追悼する考えはないと記者団に述べる。

## 7月29日

**サッカー天皇杯**◆日本サッカー協会が、9月16日に開幕する第100回天皇杯全日本選手権の1〜3回戦の組み合わせが決まった。翌年1月1日の決勝は国立競技場の開催が決定。

## 7月30日

**長崎平和式典**◆長崎市が、8月9日の「原爆の日」に開く平和祈念式典に、核保有国の英国、ロシア、フランスを含む74カ国（27日時点）が参列を表明していると発表。田上富久・長崎市長が記者会見し式典で読み上げる平和宣言の骨子を発表。

## 7月31日

**徳仁**◆「春の叙勲」のうち、大綬章の親授式が皇居・宮殿「松の間」で開かれ、旭日大綬章の荻田伍・元アサヒビール会長兼CEOや榊原定征・前経団連会長ら7人に勲章を手渡す。当初は5月の予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大により延期となっていたもので、中綬

章などの受章者については、徳仁との面会が中止となったため、8月後半から9月にかけて皇居内を見学する機会が設けられる。

**秋篠宮**◆新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、インターネット開催で始まった全国高校総合文化祭（総文祭）に「関係者の熱意と創意工夫により、今までにない形の総文を作り上げてくれたことに深く敬意を表します」との「お言葉」を寄せる。総文祭の特設サイトに掲載される。

**「春の叙勲」**◆安倍晋三首相が、皇居で行われた「大綬章親授式」に参列。午後、皇居での「重光章伝達式」に出席。

**愛知県事解職請求**◆愛知県の大村秀章知事の解職請求（リコール）を目指す美容外科「高須クリニック」の高須克弥院長が、リコールに向けた署名活動に必要な代表者証明書の交付を求め、県選挙管理委員会に申請書を提出。

**東京五輪**◆1936年の当日、ベルリンで開催の国際オリンピック委員会（IOC）総会で、40年の五輪開催地を東京に決定したと報道。日中戦争に突入したため政府は中止を決定、38年に開催を辞退し、幻の大会に。

**ワイマール憲法**◆1919年の当日、第1次世界大戦後のドイツ革命でドイツ帝政が崩壊し、ワイマールで開かれた国民議会が共和国憲法を採択したと報道。

**李登輝**◆台湾の蔡英文政権が、死去した李登輝・元総統の葬儀に関する会議を開催。安倍晋三首相が官邸で記者団に「日

# 美空ひばり「首相」

台の親善関係、友好増進のために多大な貢献をされた」。ポンペオ米国務長官が「李氏の大胆な改革が、台湾を民主主義の道しるべに変貌させる不可欠な役割を

果たした」と評価する声明を発表。台湾にある米代表機関、米在台協会台北事務所が、半旗を掲げる。新華社電によると、中国国务院（政府）台湾事務弁公室の朱

鳳蓮・報道官が「台湾独立」は袋小路だ。台湾総統府が、政府機関と学校で同日午後から8月2日まで半旗を掲げるほか、総統府近くの迎賓館「台北賓館」に

追悼場を設け、1日から16日まで一般人たちに公開すると発表。

復興五輪は大嘘だ！聞こう！福島原発被災者の声

七月二日、「東京オリンピック・パラリンピック2020を問う練馬の会」による講演集会が、練馬区役所の地下会議

室において開催された。

東京都練馬区には、陸上自衛隊練馬駐屯地と、同・朝霞駐屯地があり、朝霞駐屯地には陸上自衛隊の総隊司令部、練馬駐屯地には第一師団が置かれている。東京五輪では、陸上自衛隊朝霞訓練場がラ

トや動員を「授業」の一環としても予定。この、ご真ん中の軍隊のパブリックリレーションズに反対するため「練馬の会」は

にまみれた国や東電らのやり口を告発した。安倍は「復興五輪」を「コナ」「克服」と結びつけるが、福島「イノベーショ

## 「学習会報告」

### 御厨貴編著『天皇退位 何が論じられたか』

——おことばから大嘗祭まで——（中公選書・二〇二〇年）

アキヒト天皇の「生前退位」を実現するのに大いに力となった安倍首相がつくりだした「天皇の公務の負担軽減等に関する有識者会議」の座長代理であった著者（実質的に、その会議をしきった）の、

の自覚的加担者だった著者は、首相の意をも組みこんで、こんなふうに、それをうまく実現したという自慢話のトーンが著者の「はじめに」や細かく添えられたコメントを通して、全体から伝わってくる

「平成の幕引きとともに、戦後という時代がようやく『本当』に終わった」と実感している。

この著者のいう「終わった戦後」とは、いいかえれば戦後憲法下の象徴天皇制理解、天皇制と民主主義・人権・平和主義は、対立的である、あるいはかなり矛盾しているという戦後支配的

戦後憲法の天皇規定（非政治・非宗教の象徴天皇）を全面的に踏みにじる「生前退位」に向けた「典範」改正要求の実現という、天皇自身の「賭け」、これへ

の自覚的加担者だった著者は、首相の意をも組みこんで、こんなふうに、それをうまく実現したという自慢話のトーンが著者の「はじめに」や細かく添えられたコメントを通して、全体から伝わってくる

「平成の幕引きとともに、戦後という時代がようやく『本当』に終わった」と実感している。

この著者のいう「終わった戦後」とは、いいかえれば戦後憲法下の象徴天皇制理解、天皇制と民主主義・人権・平和主義は、対立的である、あるいはかなり矛盾しているという戦後支配的

（天野恵一）



ク災害おことわり連絡会」で、「延期」とされているこのオリパラが、それほど矛盾に満ちたイベントであるかを、さまざまな方面から説得的に展開した。さらに三人目は、これまで反貧困ネットワークで活動してきた瀬戸大作さん。現在、その活動に加え「新型コロナウイルス緊急アクション」として対応を上げており、この日も突然の依頼で相談者保護の対応をしてきたばかりとのこと、突然仕事を奪われる形になった多数の人びとがいる重い現実について報告された。

区の施設のため、より「密」を意識して席数を絞りながら、六二名の参加と、発言者への支援カンパを集めることができた。会としては、これ以降も、一〇月に岡崎勝さんをお呼びしての集会などを予定している。

(蝙蝠)

## 中止一択！東京五輪 7・23集会 & 24デモ

東京五輪が延期になっていなければ、本番開会式に向けて準備されるはずだった対抗アクション。おことわりリンクは延期ではなく、直ちに中止を掲げて集会・デモを行った。

二三日の集会ではメインスピーカーに武田砂鉄さんと志葉玲さん。武田さんは五輪関係者が論拠のない言動を繰り返し、住民や被災者を侮辱するメッセージを発してきた点をていねいに検証し、今まで五輪関係者の無責任な言動を問題にし

ていくべきだという明快な発言が強く印象に残った。志葉さんは入管の状況は五輪決定で悪化し、被收容者の七割超が難民であり、日本政府は五輪のために難民を迫害していると指摘。入管の外国人に対する許しがたい暴力を映像を使って解説し、怒りが湧いてきた。

後半のビデオメッセージはジュールズ・ボイコフに始まり、平昌、パリ、ロス、そして北海道から短時間編集集だったが、いずれも秀逸。コロナ状況で発言を予定していた谷口源太郎さんと江沢正雄さん(長野五輪反対)はメッセージに変更。福島からは「五輪やっている場合ではない」と強烈な発言を黒田節子さんがしてくれた。参加できなかつた方には本当に残念なくらい魅力の詰まった集会だった(YouTube等で視聴可)。

二四日のデモの前にはJOC前で即時中止を求める要請行動を行った。デモ前集会では近くで「オリンピック終息宣言展」を行っていたアーティストからもアピールをもらい、一七時に出発。新国立競技場前を抜けて原宿五輪橋で解散。両日とも一〇〇名の参加。

(宮崎俊郎)オリンピック災害おことわり連絡会



7月12日(月) ●復興五輪は大嘘だ！聞こう！福島原発事故被災者の声(集会の真相参照)

7月23日(木) ●中止一択！東京五輪集会(集会の真相参照)

## 集会情報 INFORMATION

7月24日(金) ●中止一択！東京五輪デモ(集会の真相参照)

8月1日(土) ●反「靖国」行動前段集会「コロナ危機と天皇制」

開催中 ●朝鮮人「慰安婦」の声をきく

13時〜18時(月・火・休日休館) / WAM 女たちの戦争と平和資料館(地下鉄早稲田駅) / 主催: 同館

8月6日(木) ●香港人靖国抗議見せしめ裁判控訴審判決

13時〜 / 東京高等裁判所(地下鉄霞ヶ関駅)

●8・6ヒロシマ平和へのついで2020被爆・敗戦75年今問われる民主主義

17時30分〜 / 広島市まちづくり市民交流プラザ北棟5回研修室ABC / 第一部: 西岡由紀夫、尹康彦、第二部: 小倉利丸 / 主催: 同実行委員会(連絡先: 090-4740-4608)

8月8日(土) ●第15回キャンドル行動

平和の火を「ヤスクニの間」へ

13時30分開場 / 在日本韓国YMCA(JR水道橋駅ほか) / 高橋哲哉・米須清真・武藤類子・金東椿・呉栄元ほか / 主催: キャンドル行動実行委員会(連絡先: 03-3355-2641)

8月9日(日) ●コロナ状況下での反戦集会・デモinつくば

14時〜 / つくば市竹園交流センターホール(TXつくば駅からバス) / 主催: 戦時下の現在を考える講座(090-8441-1457 加藤)

8月15日(月) ●国家による「慰霊・追悼」を許すな！8・15反「靖国」行動デモ

15時〜 / 在日本韓国YMCA(JR水道橋駅ほか) / 主催: 同実行委員会(090-3438-0263)

●許すな！靖国国営化東京集会 コロナ禍の8・15

12時〜 / youtube・zoomで配信 / 城倉啓 / 主催: 同集会実行委員会

\*要申込 [https://peace815iberia211.atweby.info/202006/article\\_1.html](https://peace815iberia211.atweby.info/202006/article_1.html)

8月23日(日) ●おことわりリンクスタンディング

18時〜 / 新宿駅南口バスター前

9月6日(日) ●特別連続セミナー 朝鮮人「慰安婦」の声をきく

15時〜 / zoomで配信(会員限定) / 永原陽子 / 主催: 女たちの戦争と平和資料館(WAM)

\*要申込 [wam@wam-peace.org](mailto:wam@wam-peace.org) 宛に特別展セミナー参加として名前 / 会員番号を明記の上申込みを

\*会場等の理由により中止・延期の可能性あり。主催者へのご確認を。



●このかん、少人数で苦闘を強いられていた反天連ニュース作業ですが、今月は久々にフルメンバーが揃いました。その分、みんなの集中力が途切れがちなってしまつ傾向が……。さあ、ピールだ、かな。(貌)



